

安河内 博氏逝去

本会會員、大分大学助教安河内博氏は九月廿四日、御病氣のため死去された。凶書紹介欄にある『對馬藩に於ける奴婢制成立の研究』は、はからずも遺著となつたものである。同氏は本会の当初よりの熱心な會員であり、同僚として痛惜に耐えない。同氏は對馬研究に於いて新庄面を開いたと

云つて良し。對馬藩の奴婢制は日本封建社会の中で特異な制度であるが、これは却つて日本封建社会の理解の爲に重要な位置を占めるものと云つて良し。安河内氏はこれを広い視野において社会的に追求しておられるので、凶書紹介欄の同氏遺著は、単に歴史学者のみならず、社会学者、法学者、経済学者その他の人々にとつても有益であると信ずる。出来るだけ多くの人から読んで頂きたいと思ひ、敢ておすゝめする。

(九州史学叢書) 大分大学助教 安河内 博 遺著

『對馬藩に於ける奴婢制成立の研究』

對馬藩の奴婢制はわが国封建体制中、他に例のない制度であり、その源流は遠く中世にさかのぼり、その終末は、明治初年に及んだ。而もその地西辺に偏在するため、従来僅か二、三の者の注目をひいたにすぎなかつたが、著者は數年來この問題ととりくみ、數度にわたつて各学界にその調査研究の結果を發表し、これが解明と紹介につとめたが今回、従来の得たところをまとめて一書とした。著者はこの書を出発として、次の内題に着手していたのであつたが、本年九月廿四日病のため急死され、本書が前途を期待された同氏の遺著となつたことは、まことに惜しみても余りある次第である。こゝに本書の内容を抄録して、大方におすゝめ致す所以である。

目次

第一章 對馬藩に於ける奴婢制成立の由来
 第一節 寛永一覽文期の拝領下人 第二節 室町時代に於ける對馬の下人 第三節 再び寛永一覽文期の拝領下人について
 第二章 對馬藩に於ける奴婢制の成立 第一節 寛文の改革と知行關係 第二節 寛文一延宝期の拝領下人 第三節 奴婢制の成立過程 第四節 奴婢制の確立整備の機運

第三章 (略)

第四章 對馬藩奴婢制の本質

附 表 下人・科人構成下一覽、一人の売

口買口一公爭免狀一覽表、室町時代に於ける對馬の人身売買者分布表、元禄期の

賈奉公人一覽 (A B 二〇一頁)

領主收帳所 福岡藩 九州史学文庫国史研究室

実費領価一五〇円郵税二〇円

振替口座 福岡一七九一九番